

「サイダーのように言葉が湧き上がる」より

協力：スタジオ心  
©2020 フライングドッグ / サイダーのように言葉が湧き上がる 製作委員会

# モールの想像力

ショッピングモールはユートピアだ

2023 3.4 Sat. — 8.27 Sun.

11:00-19:00 入館無料 高島屋史料館TOKYO 4階展示室  
休館 月・火曜(祝日の場合は開館)

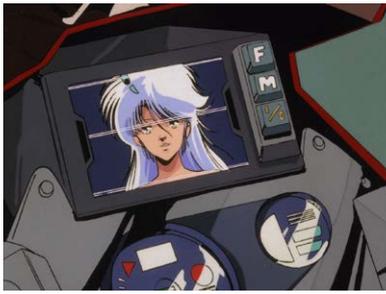
主催：高島屋史料館TOKYO | 監修：大山頭(フォトグラファー・ライター)

協力：速水健朗、座二郎、天本みのり | グラフィックデザイン：原田祐馬・岸木麻理子(UMA/design farm)



# モールの想像力

ショッピングモールはユートピアだ



『メガゾーン23』(製作 あいだる, 1985年)  
©AIC



『ショッピングモール (部分)』  
(山口晃, 2015年-) 複製パネルを展示  
撮影: 本暮伸也  
©YAMAGUCHI Akira, Courtesy of Mizuma Art Gallery



『MALL #17』(小野啓, 2012年)



『イオンにみせられて』  
(もぐこん, 2017年)

ショッピングモールとは、都市であり、宇宙である。そして、想像力の源泉である。

百貨店展に続く今回のモール展では、ショッピングモールの文化的意義を考察してみたいと思います。これまで文化批評の文脈で、モールは社会を均質化し、古くからある商店街を虚げる存在として批判の対象となってきたことが多いように思います。しかし、私たちは、今日においてモールはむしろカルチャーを育む土壌であり、文化的象徴でさえあるのではないかと考えています。それは即ち、現代の都市における最も重要な公共圏であり、私たちの日々の生活の不可分な一部であることを意味します。

モールという箱に入れば、そこはまるで一つの都市のように、ストリートに沿ってアパレルショップや雑貨店、フードコート、映画館、広場などが展開され、吹き抜けからそれらを一望すると、人々の日常の最大公約数がここに凝縮されていることが再確認できます。こうした空間であることが、多くのアーティストたちの想像力を刺激するのも無理はありません。

本展は「ショッピングモールはユートピアだ」という仮説をもとに、「街」、「内と外の反転」、「ユートピア」、「バックヤード」といったいくつかのテーマを切り口に、モールという消費空間が私たちのイメージネーションにどのように働きかけ、どのような文化的価値を創造してきたのかを読み解いてみようとする試みです。展示室には、膨大なテキストと共に、映画、音楽、コミック、小説、ゲームなど、モールを舞台としたさまざまなジャンルの作品が、あたかも巻物がひもとかれたかのように出現します。本展サブタイトルに掲げたように、モールこそが私たちの夢見たユートピアであったのかどうか、ぜひみなさまの目で確かめていただきたいと思います。また本展が、ショッピングモールの一考察として、モールの新たな側面に光をあてることのできる契機となれたなら幸いです。



『Hysan Place 希慎廣場』(大山頭, 2015年)



『デッドライジング』(2006年)  
©CAPCOM CO., LTD. 2006, 2016 ALL RIGHTS RESERVED.



『ショッピングモールの歌姫: 半崎美子』  
(イオンモール旭川西にて, 2020年)

2023 3.4 Sat. — 8.27 Sun.

11:00-19:00 入館無料 高島屋史料館TOKYO 4階展示室  
休館 月・火曜(祝日の場合は開館)

## 講演会開催のご案内

会期中、本展を監修した大山頭氏によるトークを予定しています。詳細が決定次第、当館HPにてご案内します。



## 高島屋史料館TOKYO

東京都中央区日本橋2-4-1  
日本橋高島屋S.C. 本館4・5階  
※5階旧貴賓室は、対面でのセミナー開催時のみ開館します。



<https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/tokyo/>  
shiryokantokyo @takashimayashiryokantokyo

## アクセス

- ・JR「東京駅」八重洲北口から徒歩5分
- ・東京メトロ 銀座線・東西線「日本橋駅」直結
- ・都営地下鉄 浅草線「日本橋駅」から徒歩4分

※駐車場は大変混雑しております。お車の入出庫には非常にお時間が掛かるため、ご来館の際は公共交通機関のご利用をお願いいたします。

